

TMS(竹田マネジメントシステム)の基本的な考え方

竹田印刷では2016年4月より、ISOの3つの規格9001(品質)、14001(環境)、27001(情報セキュリティ)およびJIS Q15001(個人情報保護)のマネジメントシステムを統括して、TMS(竹田マネジメントシステム)として運用をスタートしました。

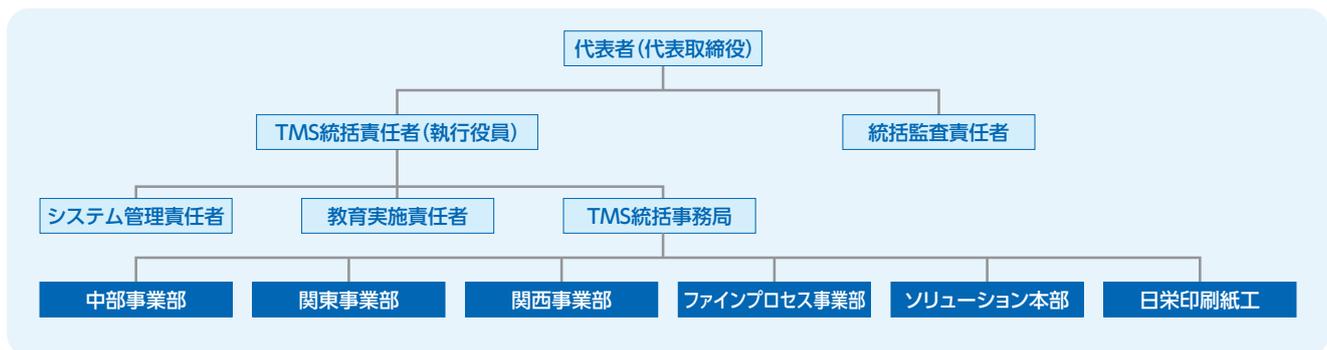
中部・関東・関西の3地区を6つのブロックに分割し、各ブロック単独でもマネジメントシステムが運用できる組織体制を構築しています。

統括責任者の下、毎月開催される全体統括会議において、各ブロックおよび各責任者からの報告を行い、運用・管理しています。また、定期的に代表者によるレビューを実施し、継続的な改善を行っています。

マネジメントシステムの認証取得状況(2020年度)

適合規格	ISO 9001:2015	ISO 14001:2015	ISO 27001:2013	プライバシーマーク
認証取得日	1999年11月	2000年12月	2015年10月	2005年11月
認証登録番号	07965-A	07965-B	10553	19000167(08)
認証機関	インターテック・サーティフィケーション株式会社			一般社団法人 中部産業連盟
認証登録範囲	本社・本社工場、中部事業部 高辻工場、中部事業部 テクノセンター、中部事業部 物流センター、中部事業部 小牧物流センター、関東事業部、関東事業部 越谷工場、関西事業部、関西事業部 太田工場、日栄印刷紙工 本社・本社工場			全社
認証登録業務	商業用・出版用印刷物の企画・デザイン、印刷及び営業業務、ソフト関係(ホームページ及びCD-ROM等)の企画・制作・製造及び営業業務、半導体向けフィルム・ガラス乾板・スクリーンマスクの設計・製造及び営業業務			全業務
認証取得割合	100%	100%	100%	100%

2021年度 TMS(竹田マネジメントシステム) 組織体制図



竹田マネジメントシステム基本方針

私たちは、品質、環境、情報セキュリティの活動に対し、竹田マネジメントシステムを確立し、企業活動を通じて社会への貢献を目指します。

a 品質

いつもお客様の立場から企画・提案を考え、独自の手法で品質の向上並びにミスの削減に努め、お客様の期待に応えるファーストコールカンパニーを目指します。

b 環境

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、限りある資源確保のために資材や生産エネルギーの有効的な活用と廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルに努めます。そして、気候変動の緩和及び適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を含め環境保全意識の向上を図り、環境への負荷を減らす取り組みを積極的に行い、環境汚染の予防に努めます。

c 情報セキュリティ

適用範囲の全ての情報資産を脅威から保護するため、マネジメントシステムを確立し、その導入、運用、監視、見直しを実施することでリスクを適切に管理します。

d 教育・訓練

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に対して教育・訓練を定期的実施し、すべての人々がレベルアップに取り組み、お客様をはじめ利害関係者の信頼に繋がります。

e 順守

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々は、関連する法規制、業界規範及び、お客様の要求事項を順守し、本方針を維持するために策定された手順に従い、行動規範とルールを守ります。

f 継続的改善

重大な障害または災害から事業活動が中断しないように、予防及び回復手順を策定し、定期的な見直しをいたします。また、適宜、環境の変化に応じた見直しを実施し、維持及び継続的に改善を行います。

g 周知

本方針を文書化し、啓発活動を行い、竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に周知するとともに社内外に公表します。

2019年4月1日
代表取締役社長 木全 幸治



2020年度 TMS マネジメントプログラム(主な取り組みと結果)

ESG	ISO26000	SDGs目標	目的・目標	主な実施項目	有効性測定 評価結果	掲載 ページ
ガバナンス	組織統治		法規制の順守	法規制一覧の順守。各部署で該当する法規制を特定し法律違反をしない。	9.8	P.13
			情報セキュリティの教育訓練	情報セキュリティ、個人情報保護などの教育を計画的に実施する。	9.8	P.14
社会活動	消費者課題		顧客価値の増大化	顧客価値を増大させることで、会社方針を達成する。	8.2	P.17
			ミス・クレーム件数の削減	お客様への不適合品の流出を減らす。	9.0	P.18
	労働慣行		改善提案	業務がより効率的・効果的に進み、よい結果が出るように改善する。	8.2	P.20
			人材育成・教育訓練	能力向上やキャリアアップを推進する。	9.6	P.21
			健康経営	経営的な視点から従業員の健康管理を行う。	10.0	P.22
			職場環境の改善	安全衛生を妨げる要因を特定し、5Sパトロールで予防する。	9.7	P.23
	人権		No残業デーの実施	計画的に実施することで時間外労働を減らす。	9.4	P.25
			ワーク・ライフ・バランスの推進	計画的に有給休暇を取得する。	8.7	P.25
	公正な事業慣行		サプライヤー・チェーン	下請法の順守など、対等で公正な取引を行う。	9.9	P.27
	コミュニティ		周辺清掃	周辺清掃の実施で地域社会へ貢献する。	10.0	P.28
環境活動	環境		省エネの推進	電気使用量の削減などで温室効果ガスを減らす。	9.9	P.30
			環境提案の推進	環境に良い資材やプロセスの利用を推進する。	10.0	P.32